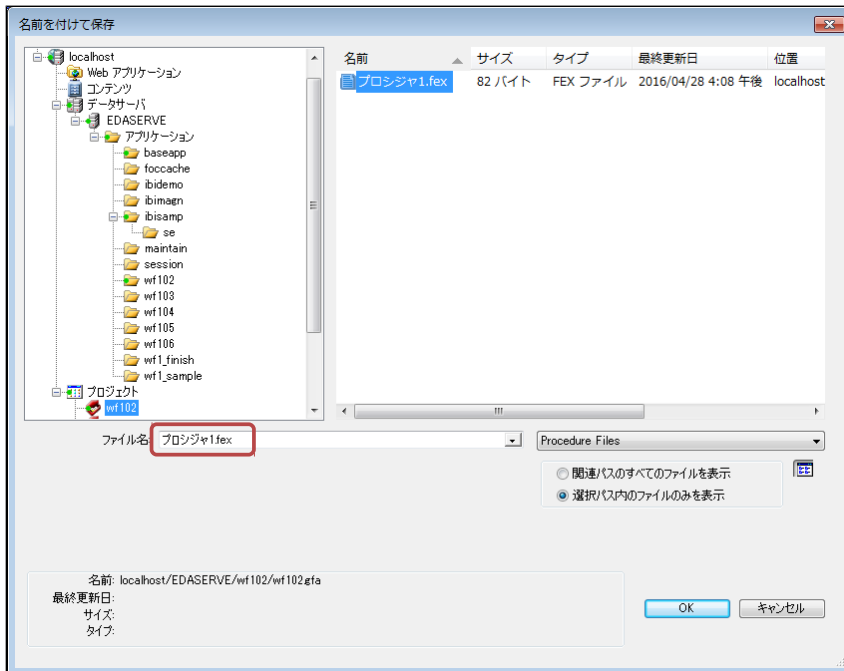


*WebFOCUS*研修補足資料  
(*WebFOCUS* 8.1.05Mの主な変更点)

# 1 WebFOCUS 8.1.05Mの主な変更点

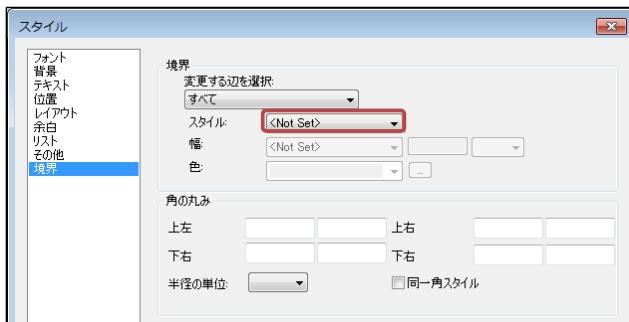
## 1.1 プロシジャ名の初期設定の変更

WebFOCUS 8.1.05Mでは、プロシジャ名の初期設定が「プロシジャ名.fex」のように日本語です。プロシジャ名は半角英数字を指定する必要があるため、必ず変更してください。



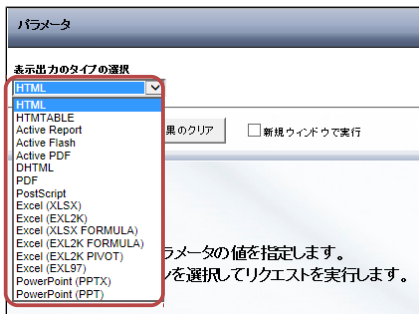
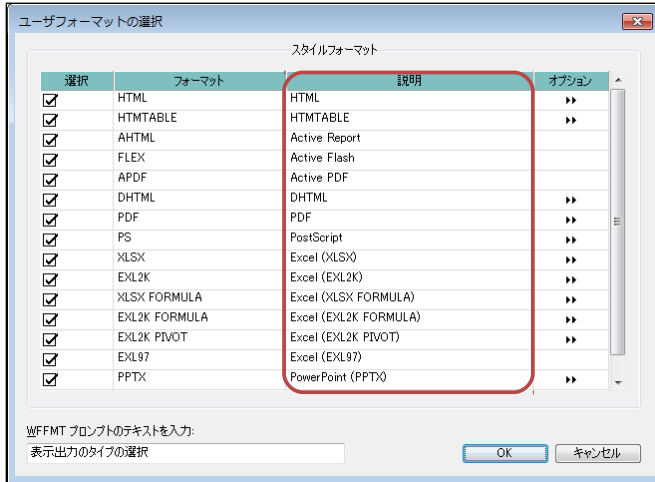
## 1.2 HTMLキャンバスの設定値の表示変更

WebFOCUS 8.1.05Mでは、HTMLキャンバスの[プロパティ]パネルや[スタイル]ウィンドウで、何も値を設定しなかった場合の表示が「<設定しない>」から「<Not Set>」に変更されました。



## 1.3 [ユーザフォーマットの選択] ウィンドウの [説明] の変更

WebFOCUS 8.1.05Mでは、出力形式ユーザを設定した場合に表示される[ユーザフォーマットの選択]ウィンドウの[説明]が変更されました。これにより、入力コントロールの選択肢として表示される文字も変更されます。



## 1.4 Webコンソール起動時の注意点

WebFOCUS 8.1.05Mでは、App Studioの右上にある[WebFOCUS 管理]をクリックし、[Reporting Server コンソール]を選択してもWebコンソールを起動できません。(Webコンソールではなく、BI Portalの画面が起動します。)

Webコンソールの起動はブラウザから行ってください。

Webコンソールは、以下のURLで起動します。(研修環境では、「http://localhost:8121/」で起動します。)

http://サーバ名 : ポート /

サーバ名 : レポートサーバのホスト名もしくはIPアドレスです。

ポート : レポートサーバのWebコンソール用のポート番号です。デフォルトは8121です。

WebFOCUSのサーバにセキュリティが設定されている場合は、サーバ管理者IDでログインしてください。

デフォルトの管理者IDは「srvadmin」です。(パスワードは任意の値が設定されています。)

## 1.5 サーバログへの出力内容の変更

WebFOCUS 8.1.05Mでは、テンポラリディレクトリのファイルがロックされている場合に、サーバログに出力されるログが変更されました。

### ● WebFOCUS 8.1.05

```
01/04/2016 08:30:30.644 I edatemp is C:¥ibi¥srv77¥wfs¥edatemp
01/04/2016 08:30:30.644 I Removing old edatemp directory.
01/04/2016 08:30:30 644 E multiple entries could not be removed
01/04/2016 08:30:30.644 E cannot create tmp dir
01/04/2016 08:30:31.267 I Workspace Manager stopped
```

### ● WebFOCUS 8.1.05M

```
01/04/2016 08:30:30.644 I edatemp is C:¥ibi¥srv77¥wfs¥edatemp
01/04/2016 08:30:30.644 I Removing old edatemp directory.
01/04/2016 08:30:30 644 E cannot remove file:C:¥ibi¥srv77¥wfs¥edatemp¥test.xls
01/04/2016 08:30:30.644 E 一時ディレクトリを作成できません。
01/04/2016 08:30:31.267 I Workspace Manager stopped
```

## 1.6 シノニムエディタによるマスターファイルの編集

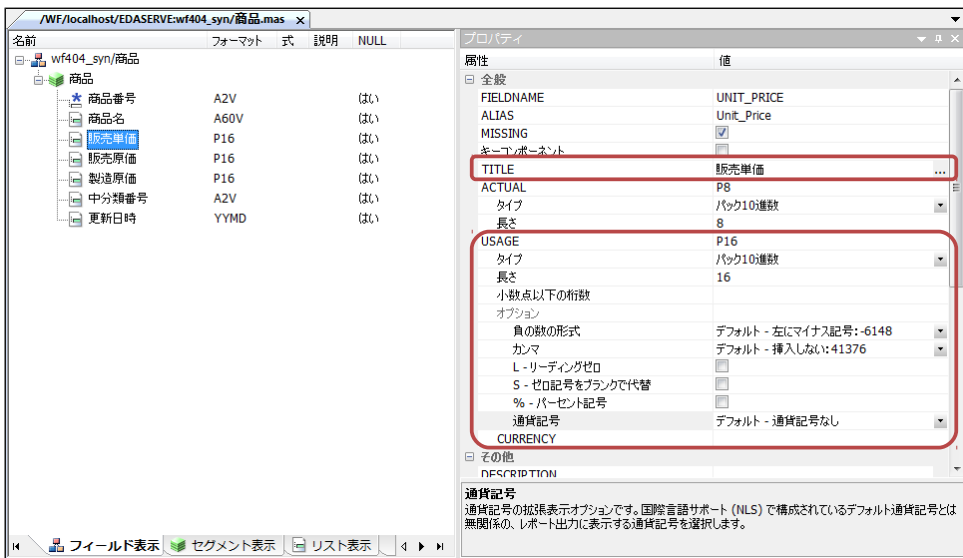
WebFOCUS 8.1.05Mでは、シノニムエディタを利用してマスターファイルをGUIで編集できます。

[環境ツール]パネルでマスターファイルをダブルクリックすると、シノニムエディタが起動します。

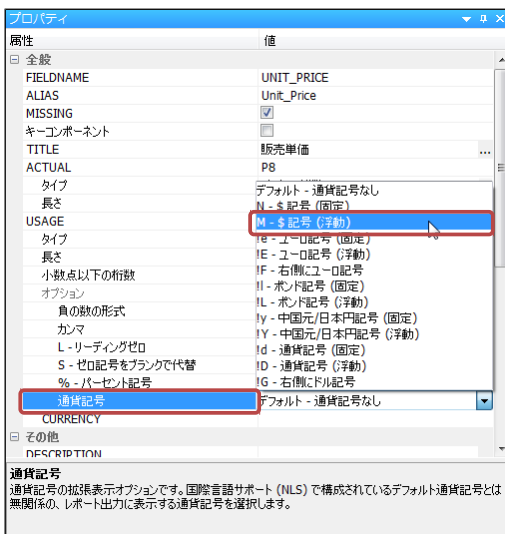
WebFOCUSサーバにセキュリティが設定されている場合、シノニムエディタ起動時にログイン画面が表示されます。

## ● マスターファイルの属性の変更

属性を変更する項目を選択し、[プロパティ]パネルでTITLEやUSAGEの値を変更します。



例えば、数値データを通貨記号の¥マーク付きの表示に変更したい場合は、USAGEの[オプション]の[通貨記号]から「M - \$記号(浮動)」を選択します。



## ● 日付項目の変更

日付項目の時刻の有無を変更する場合（日付タイプと日付時刻タイプの変更）には、USAGEとACTUALの両方を変更します。シノニムエディタでは、ACTUALの[タイプ]を変更すれば、USAGEも自動的に変更されます。例えば、ACTUALの[タイプ]を「日付」から「日付時間(タイムスタンプ)」に変更すると、USAGEの[タイプ]も「日付時間(タイムスタンプ)」に変更されます。

The first screenshot shows the 'ACTUAL' field with 'DATE' selected in the 'タイプ' (Type) dropdown. The 'USAGE' field also has 'DATE' selected. The second screenshot shows the 'ACTUAL' field with '日付時間(タイムスタンプ)' (Date Time Stamp) selected. The 'USAGE' field has also updated to '日付時間(タイムスタンプ)'. The '時間' (Time) unit is set to 'I - 分 2012/08/21 02:05'.

日付時刻タイプに変更した場合は、[時間]で単位を指定します。

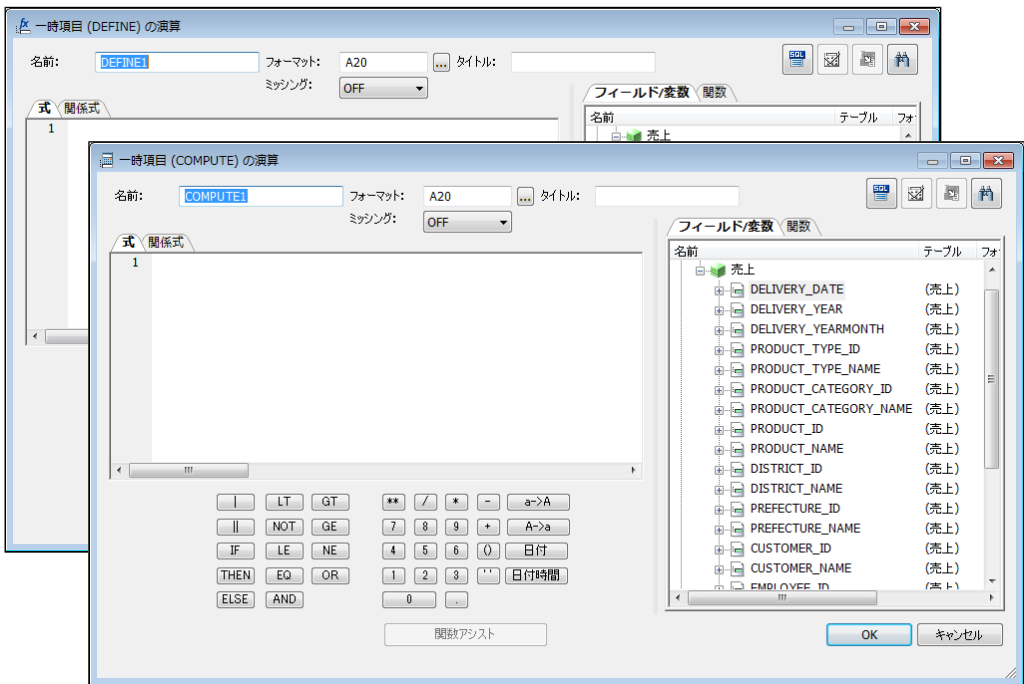
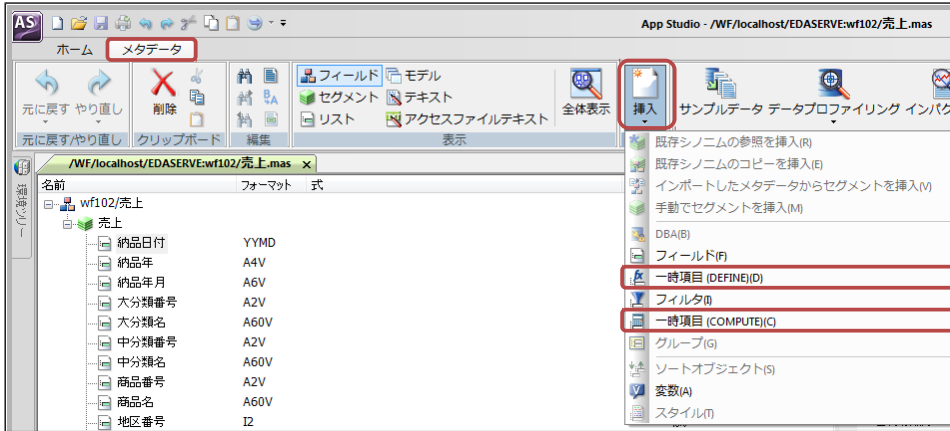
例えば、ACTUALの[時間]で「S - 秒 2012/08/21 02:05:27」を選択すると、ACTUALとUSAGEの値が「HYMDS」に変更されます。

The first screenshot shows the 'ACTUAL' field with '時間' (Time) selected in the 'タイプ' (Type) dropdown. The 'USAGE' field has '時間' selected. The second screenshot shows the 'ACTUAL' field with 'S - 秒 2012/08/21 02:05:27' selected. The 'USAGE' field has updated to 'HYMDS'. The '時間' unit is now 'S - 秒 2012/08/21 02:05:27'.

● マスターファイル中のCOMPUTE、DEFINE

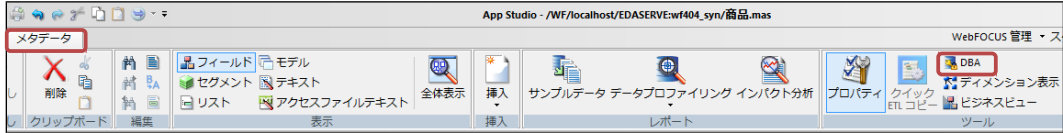
マスターファイル中にCOMPUTEとDEFINEを指定するには、[メタデータ]タブの[挿入]をクリックし、[一時項目(DEFINE)]、または[一時項目(COMPUTE)]を選択します。

[一時項目(DEFINE)の演算]、または[一時項目(COMPUTE)の演算]ウィンドウで、名前とフォーマット、演算式を指定します。



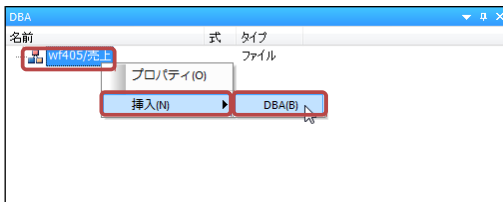
## 1.7 シノニムエディタによるDBAの設定

WebFOCUS 8.1.05Mでは、シノニムエディタを利用してマスターファイルにDBAを設定できます。シノニムエディタで、[メタデータ]タブの[DBA]をクリックすると、[プロパティ]パネルの下に[DBA]パネルが表示されます。

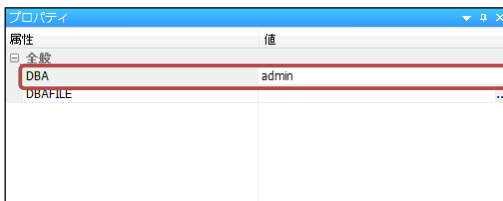
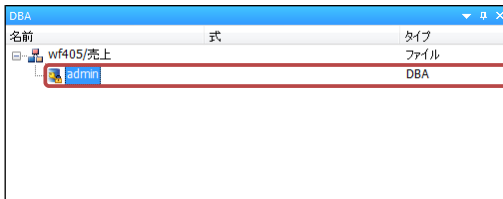


### ● 管理者ユーザの設定

[DBA]パネルのマスターファイル名を右クリックし、[挿入]→[DBA]を選択し、管理者ユーザを追加します。



管理者ユーザを変更する場合は、[DBA]パネルで追加された管理者ユーザを選択し、[プロパティ]パネルで[DBA]の値を変更します。

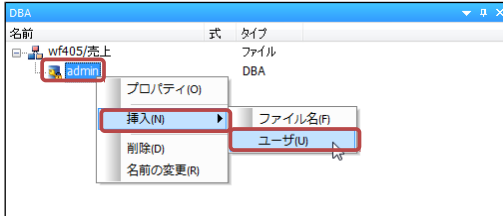




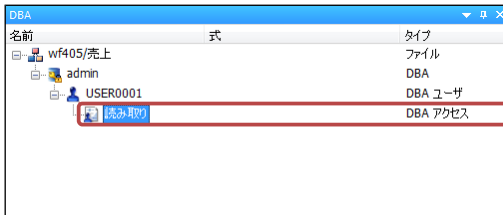
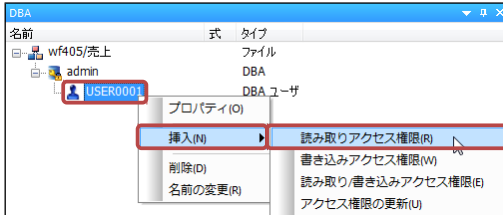
## ● ユーザの追加

[DBA]パネルの管理者ユーザを右クリックし、[挿入]→[ユーザ]を選択し、ユーザを追加します。

ユーザを変更する場合は、[DBA]パネルで追加されたユーザを選択し、[プロパティ]パネルで[USER]の値を変更します。

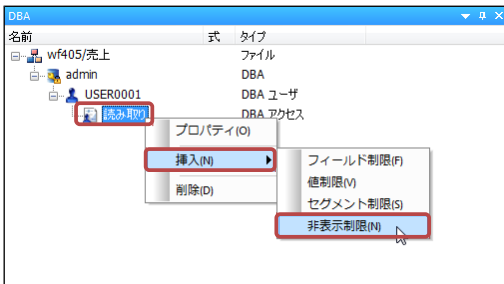


またユーザには「読み取り」権限を追加する必要があります。「読み取り」権限を追加するには、ユーザを右クリックし、[挿入]→[読み取りアクセス権限]を選択します。

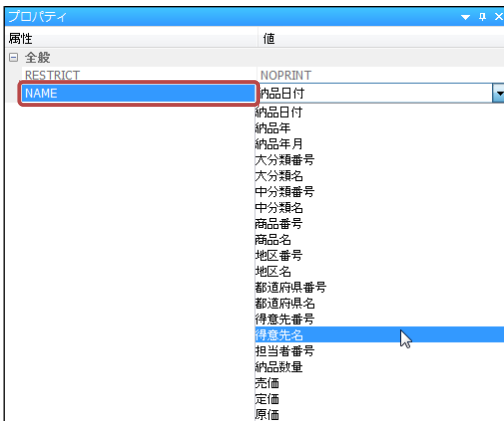
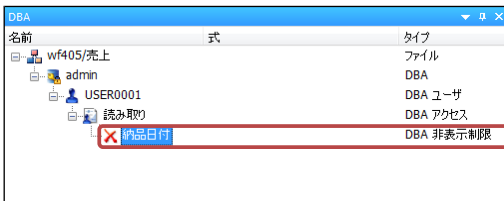


## ● 項目の参照制限

[DBA]パネルの「読み取り」を右クリックし、[挿入]→[非表示制限]を選択します。

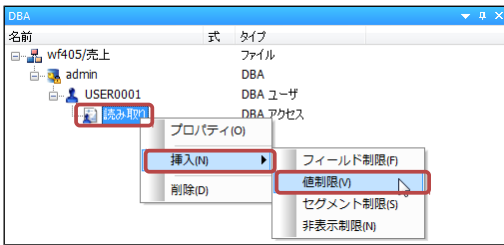


参照制限をかける項目を変更する場合は、[DBA]パネルで項目を選択し、[プロパティ]パネルで[NAME]の値を変更します。



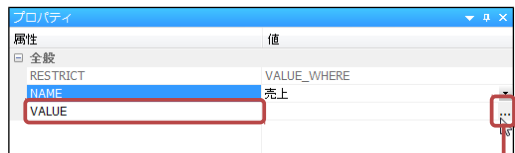
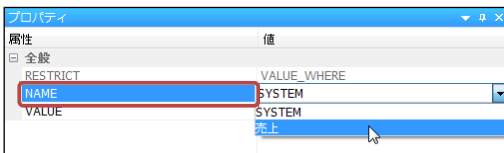
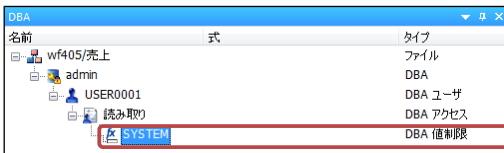
● データ/レコードの参照制限

[DBA]パネルの「読み取り」を右クリックし、[挿入]→[値制限]を選択します。

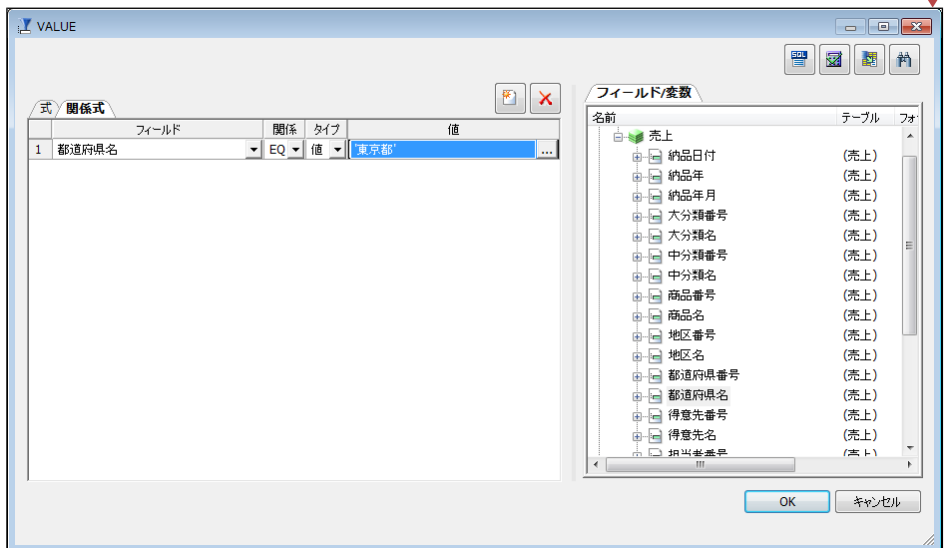


参照制限をかけるセグメント名や条件式を変更する場合は、[DBA]パネルで追加された値を選択し、[プロパティ]パネルで変更します。

セグメント名は[NAME]、条件式は[VALUE]の値を変更します。



[ VALUE ]の右端の[ ... ]ボタンをクリックすると、[ VALUE ]ウィンドウが表示され、条件式をGUIで指定できます。



WebFOCUS研修補足資料（WebFOCUS 8.1.05Mの主な変更点）

発行者 株式会社アシスト



著作権所有 © 2016 株式会社アシストこの研修コーステキストの著作権は株式会社アシストが所有します。  
当社の文書による許可なくして、いかなる手段による複製も禁止します。

本書に記載された内容を使用して、いかなる損害が発生しても、株式会社アシスト、および、著者、本書製作関係者は一切責任を負いません。

WFEXT8105M-20170706